



### 10 月を振り返って

今月から 3 年生対象の個別面談を行っています。しかし例年に比べて出足が鈍いように感じています。就活にせよ採用選考受験にせよ、方針は早めに決めて準備をする必要があります。教員志望の方もそうでない方も、自分のキャリアプランを考える時期に来ています。ぜひ一度、教職課程センターまでお越しください。卒業までのロードマップを完成させていきましょう。

- 現在、教員採用選考に関する各自治体の過去問や面接対策等の資料が集まりつつあります。最新の傾向を知っておくことは重要です。資料の貸し出しも随時行っていますので、来室をお待ちしています。
- この夏の採用選考で合格された方には合格体験発表会への参加、合格体験談の原稿作成をお願いいたします。詳細は別途個別にお伝えいたします。
- 10 月号でお知らせしましたが、10 月 20 日に「Tokyo 教育 Festa」が開催されました。この中でも教師の働き方改革について取り上げられていました。まだまだ道半ばではありますが、今まで教師が奉仕活動として担っていた、部活指導を外部の指導員に委託する流れや、教員でなくてもできる仕事（印刷・配布・会議の資料作り・登下校の見守り・地域パトロール）などは、それらを担う専門の職員を任用することで、教員の負担の軽減を図るなど、目に見える形で取り組みが進んでいることが紹介されていました。これから教師になる皆さんが、現場で活躍する数年後には、これらの取り組みがもっと広がっていると考えられます。昨今「教員はブラック」という風潮が定着していますが、一方で働き方改革も目に見えて改善が進んでいますので、ぜひ教育の現場に、多くの皆さんが参加してくれることを期待しています。

### 11 月の予定

月末の 11 月 30 日には、今年度採用選考を受験された 4 年生による「合格体験発表会」を予定しています。ここでは今年度実際に採用選考を突破した先輩たちの、リアルな声が聞けることと思いますので、3 年生以下で教職課程を受講中の皆さんは、ぜひ積極的に参加してください。またその翌週の 12 月 7 日（土）には「卒業生を囲む会」を予定しています。現在各地で教員として活躍中の本学の卒業生を、ゲストティーチャーとしてお招きし、教員の職務の実態や、現場でのリアルな体験などについてお話をいただく予定です。特に皆さんの興味関心が高い「働き方改革」の実態についてのお話も聞けることと思います。教職志望の方もそうでない方も、社会人の先輩の生の声を聴く体験は貴重だと思いますので、こちらもぜひ積極的にご参加ください。

★合格体験発表会 11 月 30 日（土）13 時 10 分～ W304 教室

★卒業生の話を聞く会 12 月 7 日（土）13 時 10 分～ W304 教室

お願いしていた「事後アンケート」が集まってきましたので、その結果の一部をお知らせしたいと思います。

質問：「採用選考を受験するにあたって、あなたはいつごろから、どんな準備を行いましたか」

- ◆ 本番の約 1 年前から受験対策を始めました。大学 3 年生の夏休みから初めて、教職教養と専門教養については、去年の先輩たちの勉強法を真似して、初めは過去問を解いて自分の実力がどれくらいか確認しました。その後、教職教養に関しては、時事通信社の赤い参考書を中心に勉強を行いました。専門教養に関しては 3 年生の夏休みに、高校の時に受験勉強で使用していた基礎問題精講を 3 周して、その後は過去問をひたすらやりました。1 日 4 時間を目標に勉強を行って、勉強時間を計るアプリを使って合計 700 時間くらい勉強しました。過去問をやることは特に重要だと思います。論文対策は齋藤先生に手伝っていただいて 11 月から始めました。毎回テーマを変えて、10 回以上書いて添削を受けてきました。論文の「型」が身についてきたことで、どのようなテーマが出ても対応できるようになりました。面接や模擬授業は教職課程センターが用意してくれたプログラムに沿って対策を進めてきました。
- ◆ 筆記試験については、約 3 か月間勉強し、小論文は 2023 年 12 月から書き始めました。面接練習は齋藤先生の指導の下、計 4 回演習に参加しました。筆記試験はひたすら、参考書の内容を覚えたり、過去問を解いたりしました。教職教養は 3 か月、専門教養は約 1 か月かけて勉強しました。小論文は、東京都の 2019 年から 2023 年までのテーマについて書いて、東京以外にも埼玉と神奈川のテーマも各 3 年分くらいやりました。小論文もひたすら書いて、全部で計 35 枚書きました。論文は、齋藤先生指導の下で「型」を意識して修正と作成を進めれば大丈夫です。面接は、春休みに 2 回やって、そこで 250 問の予想質問の答えを考えました。直前の夏休みは 3 回面接練習をして、絶対聞かれる質問の内容を固め、場面指導について 150 問考えました。また、1 次選考合格発表後に面接表を作成し、齋藤先生に添削してもらいました。

質問：「これから採用試験の準備を始める下級生に対して、これはやっておいたほうが良い！という取り組みを教えてください」

- ◆ 勉強をするなら早めの時期から始めることをお勧めします。正直論文と筆記試験の両方を取り組むのはなかなか厳しいと思います。なので、迷っていても 3 年生前倒し受験はしておいて損はないと思います。面接で話す内容について、自分が一番困ったのは、「あなたが今まで取り組んできたことで、最も成果を上げ、苦労したことは何ですか」という質問だったので、今この質問への回答にぴんと来ない人は、何か新しいことに挑戦したり、何かに必死に取り組んだりする経験があるとよいと思います。本気で教員になりたいのであれば SSS（スクールサポートスタッフ）や学習指導員など、学校の中で活動するような仕事に挑戦してみてください。
- ◆ ちょっとずつでもいいから早めに勉強を始めることが大切だと思います。一度勉強しておけば思い出すのは早いです。採用選考の面接は、独特の雰囲気なので、雰囲気に慣れておくという意味でも面接練習は、多くやっただけいいと思います。教職課程センターで設定してくれる演習には必ず参加したほうがいいと思います。
- ◆ とにかく過去問はやる！過去問から傾向をつかんで、「自分ならこの分野で点が取れる」って思った所を中心に勉強することが大切です。また一般教養は、力を入れる領域を絞ることも大切です。

何と言っても子どもたちとのコミュニケーションです。たとえ ICT 機器が発達したり、デジタル教科書が導入されたりしたとしても、授業の中心は、教師と子どもたちの間での「文字」や「言葉」や「雰囲気」による相互コミュニケーション（メッセージの交換）であることに変わりはありません。コミュニケーションを大別すると、① 生徒が発する様々なメッセージを**受け止める力**、② 教師の願いや思いを生徒に**伝える力**、に分けることができます。それぞれの場合について、教師は様々な工夫をしながら教育活動（授業や学級活動）を進めていきます。今回はコミュニケーションを中心に教師の活動を整理していきましょう。

☆ **生徒が発する様々なメッセージを受け止める力**

- 発言を聞き取る力：しっかりと傾聴する。途中で発言を遮らない。
- 発言を受け止める力：たとえ生徒の発した言葉が不十分だったとしても、「生徒が言いたいこと」を推測・理解し、発言を補足することで、しっかりと最後までアウトプットさせる。
- 考えを引き出す力：うまく言語化できない生徒にヒントを与えて、言い換えさせることでアウトプットを促す。
- 結びつける力：生徒の発言の中から共通点や相違点を取り上げて、整理統合することで、論点や疑問点、概念を明確にしていく。
- 価値付けする力：発言の裏や奥に潜んでいる価値を見出し、その価値に気付かせる。
- 表情を読む力：困っている生徒、支援を求めている生徒の表情や雰囲気を察して、必要な支援について思いを巡らし、最適な支援を行う。

☆ **教師の願いや思いを伝える力**

- ゴールを示す力：授業や学級活動のねらいを意識し、取り組みのゴールを示す。
- 発問を工夫する力：どのように問いかければ、生徒に気付かせることができるか思いを巡らせる。
- イメージさせる力：生徒がゴールに近づくために有効な情報やヒントを考えて提示する。
- 概念形成を促す力：教材が持つ価値を理解し、既知の学習事項を考慮しながら提示する。
- 板書する力：授業や取り組みのねらい、生徒が考える目的や重要事項、意見の集約を行う。
- ICT 機器を使う力：板書しにくい情報については、ICT 機器を使って可視化して提示する。
- 自身の体験を伝える力：体験に基づいた事実や印象を伝えることで、教材の価値を高める。

**○人生の先輩として語る力：人生において何が大切なのか、経験を踏まえて生徒に伝える。**

ここまで書き進めてきて、改めて「教師の仕事ってすごいな・・・」と実感しています。上に示した様々な力を、日々の教育活動の中で場面や状況に応じて使い分け、生徒に寄り添い支援をしていく、という取り組みは、**鋭い感受性と洞察力、子どもたちに信頼される人間力**が求められるからです。皆さんの成長の陰にも、きっと支えとなってくれた先生方の存在があったはずです。決して派手な活動ではないし、スポットライトを浴びることもありませんが、やはり教師は人生を懸けるに値する仕事だと思います。

## シリーズ【私が出会った忘れられない生徒たち】

長年教師をやっていると、一生忘れられない生徒

との出会いもあります。今月は【私が出会った忘れられない生徒たち】について回想を載せたいと思います。今回ご紹介するのは、「行動力が異常に高かった生徒たち」です。どんな生徒たちだったかと言うと・・・

昭和の最後から平成にかけて、中学校は荒れていました。問題行動を起こす生徒も多く、そんな彼らのエネルギーを発散させるために、部活動に力を入れる学校も多かったのです。私の勤務校にもやたらエネルギーギッシュな生徒がたくさんいて、体育祭や合唱コンクールなどの学校行事に対する彼らの意気込みも、今とは比べものにならない程強かったです。特に合唱コンクールの前などは、朝 7 時にはほとんどの生徒が登校し、自主的に練習を始めるのです。パートリーダーが中心になってパート練習をし、最後に全員で合わせる。放課後もほぼ全員が教室に残って、練習を続けていました。しかも担任は完全に蚊帳の外「先生は黙って見ていてください」と言われ、仕方なく廊下で膝を抱えて座って彼らの歌声を聞いていました。

そんな日々が続いていよいよコンクール当日を迎えたその朝、私も 7 時少し前に出勤したのですが、なぜか校庭が騒がしいのです。急いで校庭に向かうと、校庭の真ん中に 2 本の木がラグビーのゴールのように立てられていて、そこに横断幕が掲げられていました。その横断幕には「**今まで蓄えてきた力をすべて発揮せよ！**」と書かれていました。そしてその木の下には、泥だらけの数名の男子生徒が笑い転がっていたのです。急いで彼らに駆け寄ると、「いよいよ今日はコンクール当日なので、みんなに気合を入れてほしくて作りました」と言うではないですか。話を聞くと、どうやら近所の材木置き場から勝手に丸太を引いてきて、夜中に校庭に穴を掘り、その丸太を立てて、明け方に用意してきた横断幕を掲げたようなのです。

教員としては彼らがしたことは、とても認めるわけにはいかないので、急いで横断幕は外させて、丸太も倒させて、元あった材木置き場に戻させました。よその物を勝手に持ってきたのですからもちろん犯罪行為です。該当の生徒を連れて謝罪にも出向きました。幸い理解のある社長さんで、穏便に収めてくれました。学校に戻り静かな部屋で彼らと対面し「なぜこんなことをしたのか」と改めて問いかけると、「先生、おれたち学年全員がこの日のために限界まで頑張った。今日はコンクールだから順位決着はついちゃうけど、順位じゃなく、今までの全員の努力を讃えたいと思ったんです」と言うのです。私は「そうか、その気持ちは理解する。でも他人の持ち物を勝手に使うことは許されないからな」と指導しました。しかし内心はそこまで一つの行事にのめりこんで夢中になれる生徒たちのことを、うらやましく感じたのも事実です。残念ながら今の中学生にはここまでのエネルギーは感じられません。エネルギーが満ち溢れていた時代ならではの出来事でした。

